

「AALと日本語の4技能」パート2

4月6日（金）の始業式での校長講話の内容を掲載します。

- ◆2018年4月6日の始業式での校長講話◆ 「AALと日本語の4技能」パート2
- 去る3月22日の終業式で、「AALと日本語の4技能」について話をしました（ドリーム第321号参照）。本日は、その2つについて最近の出来事話をします。
 - まず、AAL（アート・アクティブ・ラーニング）に関してなのですが、この春休み中、上野の国立西洋美術館の「プラド美術館展」に行った時、本校の男子生徒が見学に来ていて、声をかけてくれました。私は、よく美術展覧会に行きます。時々、制服を着た中学生・高校生を見かけます。しかし、だいたい短時間で絵の前を通り過ぎて行きます。修学旅行や校外学習なんだと思います。折角こないいい絵が来ているのに、もったいないなーと思っていました。しかし、本校生は違いました。何と美術館マニアの私とほぼ同じペースで、まわっているのです。素晴らしい「アクティブラーナー」だと感心しました。
 - 幸いにも、皆さんは比較的東京に近いところに住んでいます。それは世界の名画を鑑賞できるチャンスが多いということです。現在、六本木の国立新美術館では「至上の印象派展」が開催されています。まもなく東京都美術館で「プーシキン美術館展」があります。秋には上野の森美術館で「フェルメール展」がありますし、東京都美術館には「ムンクの叫び」が来日します。AALは、美術鑑賞だけではなく、ぜひ、皆さんも自分からすすんで東京の美術館に行き、豊かな感性を磨いて欲しいと思います。
 - 次に、「日本語の4技能」についてです。終業式では、3月6日にインタビューを受けた4人の生徒の「話す力」が素晴らしいと誉められた話をしました。私は、3月13日につくば国際会議場で実施された「SSH成果報告会」での皆さんの「伝える力」の成長ぶりに感心しました。ポスターセッションも見事でした。さらに、3月31日につくばカピオで開催された弦楽アンサンブル部の「第1回定期演奏会」でも、司会の生徒たちの話の上手さに感心したところです。皆さんは、ここ2年間で、かなり「話す力」「伝える力」が身についてきたと感じています。それは、普段の授業中の「アクティブ・ラーニング」の成果でもあると思います。
 - どういう所が進歩したかを具体的にお話しします。まず、よく手を使うようになりました。話は、口だけでなく、手や顔の表情を使ってするものだと思います。多少オーバーアクションでいいので、どんどん身振り手振りを入れてください。さらに、語尾をハッキリ話しているということです。日本語は、最後の一言で肯定・否定が決まることもあります。滑舌よく語尾までクリアに話すことは、伝える時にとっても大切です。もし、「上手く伝わらなかったかな」と感じた時は、繰り返し話すといいです。これは、私が昔、日本史の授業でよく使っていたテクニックです。そして、接続詞です。皆さんの話に、自然と文と文をつなぐ接続詞が使われていることに気がつきました。これは「R80」の成果だと思います。接続詞を使って話すと、とても論理的で分かりやすい表現となります。なぜなら、文と文の関係がはっきり相手に伝わるからです。
 - 昨年4月6日の始業式では、2017年は「アクティブ・ラーニング・サードステージ」であり、具体的な目標は「論理力の育成」です。と話しました。この論理力とは「相手の主張の筋道を読み解き、自分の考えを整理して伝える力」です。
 - 今年、2018年は「アクティブ・ラーニング・フォースステージ」としました。サブタイトルは「May the Force be with you! フォースと共にあらんことを」です。スターウォーズです。でも、フォースのスペルが違うので気をつけてください。
 - このフォースステージの目標は、「論理力の育成」と「日本語の4技能の育成」の2つにしました。日本語の4技能とは、日本語を正確に「聞く・読む・話す・書く」です。終業式の話の繰り返しになりますが、すべての教科で「日本語の4技能」を意識して授業を受けるようにしてください。そして日常生活においても、恥ずかしがらずに正しい日本語を使うように心がけてください。

